

- この添削ツールの使用に必要な準備
  - pygments のインストール: `pip install pygments` とかで. (要 python)
  - `correction.sty` を  $\text{\TeX}$  が見つけられる場所に置く. 例えば `~/texmf/tex/` や `~/Library/texmf/tex/` など. 実際の場所は `kpsewhich -var-value=TEXMFHOME` を参考にすると良い.
- 使い方
  - `python3 create.py /path/to/report.tex` とすると, `/path/to/correction_report.tex` に添削用のファイルが生成される. (基本的にはコピーするだけだが, `minted` のバグ(?) を回避するために, タブ文字をスペース 2 つに置換している)
  - タイプセットは `platex` だが, `minted` を使うために `-shell-escape` オプションが必要. また, 正しい出力を得るには複数回のタイプセットが必要となる. 適宜 `latexmk` なり `cluttex` なりを使うと良いだろう.
  - 受講生の書いたコードによっては, `minted` 内のエスケープ文字や改行位置を変更したい場合もあるかもしれない. その場合は, この文章の  $\text{\TeX}$  ソース冒頭の `\newtcblistingExpand` あたりのコメントを参考にすること.
- 以下に色々サンプルを載せておいたので, PDF (`usage.pdf`) と  $\text{\TeX}$  コード (`usage.tex`) を見比べつつ参考にしてください.

```

1  \documentclass{jsarticle}
2
3  \begin{document}
4  \section{せくしょん}
5  ぽげぽげぽげ $a+b=c$ 文章の間に矢印を挟んでも大丈夫.
6  $\int_0^1 x dx = \frac{1}{2}$
7
8  \begin{itemize}
9    \item ほげ
10   \item ふが
11   \item びよ
12 \end{itemize}
13 \usecomment オプション引数で y 方向の shift を指定できる.
14
15 文章に下線を引いたり, 四角で囲ったりもできる.
16
17 全体的に色々オプションでいじれるようにした.
18 いちいち説明するのは面倒なので,
19 この  $\text{\TeX}$  コード (usage.tex) にオプションマシマシのサンプルを載せておき
20 ます.
21 色々と察してください.
22 \end{document}

```

コメントを書くテストです. 複数行あったりしても平気. バックスラッシュは普通に `\textbackslash` で.

数式中でも大丈夫. コメントが重なる場合はオプションで `yshift` を指定すればずらせる

コメントの流用もできる.

コメントの流用もできる.

コメントの流用もできる.

矢印を非表示 (実装としては透明) にすることもできる

オプションマシマシのコメントです. 表示位置, 幅, 背景色, 矢印の色を変更できます.